

大椎っ子田んぼ 2010 稲刈り編 一子どもたちの感想からー

猛暑の影響で、いつもの年より実入りが早く、予定を1週間繰り上げて9月17日(金)に稲刈りを行いました。日程を変更したにもかかわらず、たくさんボランティアのお母さん方が手伝いに来てくださり、初めてカマを手にする子どもたちも安心して稲刈りすることができました。自然観察では、子どもたちが植えたコシヒカリより後に植えた古代米の田んぼで観察しました。古代米はようやく花が咲き始めた状態。子どもたちは稲の花の観察もすることができました。サクサクと稲刈りの感覚を体験し、秋の谷津田を満喫することができた子どもたちの感想です(稲刈りをした稲は、学校のプールサイドで天日干ししたあと、体育館で陰干し、10月に脱穀をする予定です)。(松下恵美子)

■稲刈り

*「稲刈りをする時は、足を開くとふんばれるし、カマが足にあたりにくいよ」と、ボランティアのお母さんが教えてくれました。その通りにやってみるとけがはしませんでした。あまり、上手に切れませんでした。先生が「ななめにひくように切ると切りやすいよ」と教えてくださったので、その通りにやったら、切りやすかったです。わたしはコツをつかめたと思いました。(M. T)

*初めてカマを使った。カマはのこぎりみたいな刃をしている。金谷さんや高山さんがカマの使い方を教えてくださった。やってみたら意外と切れなくて苦労した。慣れてくると、簡単に切ることができた。大変だったけど、とても楽しかったです。(S. H)

*カマを使ったのは初めてで、金谷さんの説明を聞いて「自分の手や足を傷つけるのはいやだ」と思っていて、少し怖がっていました。でもやってみたら、稲の株はかたかったけど、以外にかんたんに切れました。田植えから稲刈りまですごく時間がかかることがわかり、お米を食べる時は、一粒ものこさないようにしようと思いました。(E. M)

*カマを使うのが初めてだったので、少し不安でした。でもボランティアのお母さんたちが優しく教えてくださったので、よかったです。稲がすごく大きくなっていたので、とてもびっくりしました。(A. T)

*稲刈りをするため田んぼの中にはいると、とても深くてひざこそうのあたりまでありました。最初は、稲がなかなか切れなくて大変だったけど、だんだんと切れるようになり、楽しかったです。足を洗う時、ボランティアのお母さんが水路の水で足のドロを流してくれました。楽しかったです。(A. N)

*稲刈りは初めてで心配でした。やってみると、うまく刈れたけど、服が汚れてしまいました。でも、稲が大きく育っていたし、うまく刈れたので、よかったです。(A. K)

*今日は谷津田で稲刈りをしました。始めは「やるぞ!」と思っていたのに、田んぼに入るとドロがぐちゃぐちゃするし動こうとしても足が沈んでしまう底なし沼のようで、なかなか稲まで近づけませんでした。やっと稲を刈りとれる近さになり、ボランティアのお母さんが優しく指導してくださったのでうまく刈れました。楽しくてまたやりたくなりました。(C. A)

*初めての稲刈りは大変でした。田んぼは深くて、なかなかうまく動けなくて、全部、刈れるか心配でした。けれども、先生やお母さんたちが手伝ってくださったので、稲を全部刈れてうれしかったです。稲を刈るときカマが足にあたりそうで怖かったです。稲を束ねてひもで結ぶ作業はむずかしかったです。(G. Y)

*ぼくは、今日生まれて初めて稲刈りをしました。テレビで見るには簡単そうだったけれども、始めのうちは難しかったです。でも、何回かやっていると、慣れてきてうまく刈れるようになりました。稲刈りを体験できてとてもよかったです。また機会があれば、稲刈りしたいです。(T. Y)

*稲刈りをするには、カマを使います。カマも危ないのですが、稲の葉も危ないという話を聞きました。稲の葉が目に入ると目が見えなくなってしまったりします。農家の名人でも稲の葉が目に入ってしまった人もいます。だから、私は、安全一番と集中してがんばりました。また、田んぼの中にはアメリカザリガニがいっぱいいました。田植えしたときにはクモの背中にたまごがのっていましたが、今回はたまごをのせたクモはみあたりませんでした。(N. O)

*ぼくは、稲刈りは初めてでした。始めはきんちょうしていてこわかったけど、1回刈ったら、もうこわくなくなり、簡単に刈ることができました。でも刈ろうとしたら、根っこまでぬいてしまったりと苦労しま



した。水は冷たく、ドロが足についてきて気持ち悪かったです。それでも、稲刈りは楽しかったです。(S. O)
*私は初めて稲刈りをしました。カマを使ってお米のついてる稲を刈りました。「カマをあつかう時は注意してください」と先生方がおっしゃっていたので、少し怖かったです。だんだんなれてきて、使いやすくなりました。稲を持ち帰る時、稲がうでにあたってかゆくなりました。(M. H)

■自然観察

*自然観察ではとてもちいさなネズミの巣を見ることができました。あまり見ることでできないカヤネズミの巣で、貴重なものを見れました。サワガニがかわいらしかったです。田植えや草刈りの時より、生き物が少なくなったような気がしました。大きなザリガニもいました。めずらしいカヤネズミの巣が見れて楽しかったです。(H. S)

*谷津田の田んぼに稲刈りと自然観察のために行きました。自然観察では、私たちが育てている稲とは別の古代米の稲の花をみせてもらいました。花といってもはなびらがついているわけではなく、稲の穂に花粉みたいなのがついているのが花だということがわかりました。花の色はきれいな白色で、実はまとまっていた。(A. Y)

*自然観察では、トンボを必死につかまえようとして、こうたくんがやっとなんて来て、みんなでじっくりと観察することができました。とても楽しかったです。(K. S)

*ぼくはシオカラトンボをつかまえました。トンボはすごく目がいいそうです。また、日本で一番ちいさいカヤネズミの巣も見ることができました。途中でキロスズメバチがいてとてもこわかったです。もう、田んぼに行くことがないので悲しいです。(K. H)

*自然観察で、一番最初に観察したのは、古代米の花でした。始めは実かなと思って見ていたものが、花だとわかってびっくりしました。一番印象的だったのは、カヤネズミの巣でした。ネズミの巣が、稲のくきのところにあつたからです。(S. I)

*自分たちが植えた苗とは違う古代米の苗が植わっている田んぼで自然観察をしました。緑米はもち米で赤米はふだん食べているお米にまぜて食べられるそうです。その田んぼにカヤネズミの巣がありました。去年は巣の中に4匹のカヤネズミが入っていたそうです。(M. H)

*赤米というお米は、穂が赤っぽいので、びっくりしました。田んぼにいるタニシは、急な流れでも流されないように流線型をしているタニシと丸っこい丸タニシとがあるそうです。私は、タニシにもいろいろな種類があることを初めて知りました。これまで3回谷津田に行きましたが、サワガニは必ず見ることができたので、1年中いるのかなと思いました。いろいろな草花も見られたので、よかったです。(Y. N)

*自然観察では、いろいろな生き物がいました。一番びっくりしたのは、ハチが目の前を通ったことです。じっとしていたら、ハチが通りすぎていったので、危なかったと思いました。でも、とても楽しかったです。(R. T)



谷津田いきもの図鑑 No. 46

イヌビエ

先に紹介しましたコナギと並んで田んぼの代表的な雑草がイヌビエです。

背の小さい頃は稲の苗とそっくりで見分けるのがとても難しいので、苗代の中にこっそり紛れ込んで稲と一緒に田んぼ植えてもらったり、田んぼに生えても雑草と思われないので抜かれずに生長したりして、田んぼでちゃっかりと大きく育ちます。最後は稲を上回る背丈まで伸び、稲よりも早く実を付けて稲刈り前に田んぼに種を落とします。米づくりにうまく適応してたたかに生きている雑草です。1株に付く種の数数千個になると聞きますので、農家の方はイヌビエを見つけるとすぐに除草して種を落とさせないように気をつけているようです。

ヒエというアワやキビと共に古くから日本で栽培されてきた穀物で、最近では健康ブームで再び注目されていますね。イヌビエはヒエの祖先とも言われていますが、それ自身は食用にならないので人の役に立たないヒエという意味で名前の頭に「イヌ」が付けられています(イヌムギとイヌビワなどと一緒に)。

イヌビエの仲間には古代米のように種に細長い棒(芒-のぎ-)が付いた変種(ケイヌビエ)や種子が少し大きいタイヌビエなどがありますが、よく似ていて見分けは難しいようです。

(高山 邦明)



下大和田の緑米の田んぼにたくさん生えたイヌビエ(ケイヌビエ)



里山たんけんレポート

第128回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い ―セミやトンボの身体の仕組み―

2010年9月5日(日) 晴れ

猛暑が続き、雨が全く降らない日が続いています。絞り水や湧水だけのこの谷津の水がどうなっているのか気懸かりでしたが、3つの水路は涸れることなく流れ、子ども達は川に入って小魚を追いかけていました。強い日差しの中での観察会となり、谷津の一巡は原っぱを回る短縮コースにして涼しい山へ戻り。セミ、トンボについて少し詳しく観察することにしました。子ども達は捕虫網を持って虫捕りに挑戦です。スタート早々オニヤンマを捕らえ大喜び。複眼などを拡大して見るため捕獲しておくことにしました。広場ではバッタの仲間がいっぱい。名前の通り立派なトノサマバッタ、クルマバッタ、ショウリョウバッタモドキそのほかのバッタ、キリギリス、コオロギの仲間達です。おだ置き場にはマルマル太ったナガコガネグモの巣には小さなオスのほかに芥子粒のようなシロカネイソウロウグモが4匹銀色に輝いていました。すぐ近くには巨大なオニグモが今年もいました。去年も同じ場所で見られました。

山に戻ってトンボやセミの身体の仕組みを詳しく実体顕微鏡などを使い見ました。オニヤンマの複眼にぎっしり並ぶ数万個もあるという個眼、口、など。トンボの羽にはそれぞれに筋肉があって前羽、後羽別々に動かして複雑な飛行ができることなどを知りました。また、拾い集めておいたアブラゼミでセミのオス鳴く仕組み、口吻などを見ました。トンボやセミを手にとり細かく見ることによってぐっとトンボやセミとの距離が縮まったことと思います。

(参加者 大人24名、子ども16名； 報告：網代春男)

第113回 下大和田 YPP「コシヒカリの稲刈り」

2010年9月18日(土) 晴れ

秋の農繁期最初の作業はコシヒカリの稲刈りです。田起こしや田植えにも参加した家族連れや常連さんが参加してにぎやかに刈りました。台風シーズンに備えてオダは支えをたくさん入れてしっかりと作ります。最初に刈り方や稲の結わえ方、オダへの掛け方をみんなで確認して、けががないよう、稲が途中で落ちないように備えます。小さな子どもたちも稲刈りに挑戦。最初は足を泥に取られるし、カマははじめてだし、けがをするのでは？と見ていてもちょっと心配でしたが、だんだんと上手になって最後はサクサク刈っていました。

厳しい残暑で気温が上がり額に汗をかきながらの作業でしたが、無事コシヒカリを刈り終えることができました。収穫は？というやはり分けつがよくなって穂の数少なく、刈っていても株が軽いのがよくわかるほどで、オダがまだスカスカでした。それでも収穫祭の時にみんなで食べるには十分でしょう。どうぞお楽しみに！



稲刈りを終えて記念撮影。暑い中、お疲れさまでした(撮影：田中正彦)

(参加者 大人20人、小学生9人、幼児4人；報告：高山邦明)

第59回 小山町 YPP「稲刈りば〜と1」

2010年9月26日(日) 晴れ

稲刈りの予定日があいにく台風の風雨が激しく作業ができなかったため、常連の皆さんに声をかけて翌日の日曜日に刈りました。急な呼びかけにもかかわらずたくさん子ども達も集まってくれて、元気よくコシヒカリを刈りました。オダは地元の方に教わったようにわらで縛って組みました。今年はYPPの田んぼの半分を大椎小学校が米づくりに使ったので刈る量はそれほどなく、集まった人数でお昼までに刈り終えることができました。収穫は下大和田同様、ちょっと少なめですね。

ザリガニを捕まえたり、子ども背負ったクモを観察したり、秋の谷津田を楽しみながらの稲刈りでした。刈り終わった田んぼにマユタテアカネのペアがやってきて卵を産んでいました。

(参加者 大人5人、小中学生5人、幼児1人；報告：高山邦明)



<谷津田・季節のたより>

小山町

- 9月4日 クズ、センニンソウ、田んぼでは赤米が咲き始める。色づいたナツアカネが田んぼに来ていた(高山)。
9月17日 ミズヒキやミゾソバが開花。オオアイトトンボが出始める(高山)。
9月26日 キバナアキギリが咲き始める。モズが優しい声で鳴きまねをしていた(高山)。

下大和田

- 9月24日 YPP 田と大塚田の間の小さい丸い田の農林1号の稲刈りをしたとき、その田にキジが潜んでいて目の前2mぐらいの所から飛び立ちビックリ(網代)。
9月25日 YPP 田から小川への落とし口で1.5m位のところからゴイサギの幼鳥が飛び出しこれもビックリ、驚かせられました(網代)。

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ？ と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPP のイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも)： ちば環境情報センター (TEL&FAX : 043-223-7807 E-mail : hello@ceic.info/)

ご注意： ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないください。

・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。

・小学生以下のおさんは保護者同伴で参加ください。

・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

▼第114回 下大和田 YPP「緑米の稲刈り」

コシヒカリに続いて古代米の稲刈りです。最後に実る緑米を刈ります。収穫祭でのもちつきのためにみんなで元気よく稲刈りをしましょう。鎌を使った作業ですが、小さなお子さんでも大丈夫ですよ。みんなでにぎやかにサクサク刈りましょう。

日時： 2010年10月30日(土)、10:00~14:00、小雨決行

場所： 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。
また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集合： 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に 10:00 (JR 千葉駅 10 番成東あるいは中野操車場行きの
ちばフラワーバスで 45 分<千葉駅発 8:53、9:08、9:23 など> 料金は 520 円)

持ち物： 弁当、飲み物、長靴(長めがいいです)、帽子、軍手、敷物など。

参加費(資料代等)： ちば環境情報センター会員および家族 100 円、一般 300 円、小学生未満無料

主催： ちば環境情報センター 共催： ちば・谷津田フォーラム

▼第130回 下大和田 11月の谷津田観察会とごみ拾い

秋も深まってきました。田んぼの生きもの達はどうしているでしょう？カヤネズミの巣も探して見ましょう。

日時： 2010年11月7日(日) 観察 10~12 時 午後は田んぼの作業など自由活動 *小雨決行

場所： 千葉市緑区下大和田谷津田(下大和田 YPP に同じ)

集合： 下大和田 YPP に同じ

持ち物： 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費： 100 円(小学生以上、資料代など)

主催： ちば・谷津田フォーラム 共催： ちば環境情報センター

▼第60回 小山町 YPP「稲刈りば〜と2」

古代米の緑米を刈ります。今年、コシヒカリは不作でしたが緑米はしっかり実ってくれたようです。鎌を使った作業ですが、小さなお子さんでも大丈夫です。みんなで楽しく刈りましょう。

日時： 2010年10月24日(日) 10:00~12:30 *小雨決行

場所： 千葉市緑区小山町 リンドウ広場(ご連絡いただければ地図をお送りします)

持ち物： 飲み物、長靴(長めがいいです)、帽子、軍手、敷物など。

参加費： 100 円(小学生以上、資料代など)

主催： ちば環境情報センター

編集後記 いよいよYPPの農繁期がはじまりました。コシヒカリの稲刈りにはじまり、10月の古代米の稲刈り、刈った稲の脱穀、粳すりとして11月まで作業が続きます。参加してくださる大勢の方の力を合わせてでも大変だな、といつも思う一連の作業です。機械のない昔の農家の方のご苦労は相当なものだったのでしょうか。でも、大変な作業を通じて生まれる連帯感、お互いのコミュニケーションはいつもいいな、と感じ、昔の家族の結びつきが強かったことが想像されます。
(高山邦明)